



教育担当者によくあるお悩みと そのアドバイス

製造業における品質管理の重要性がますます高まるなか、社内研修や教育の充実が求められています。しかし、教育担当者の皆さまからは「なかなかうまくいかない…」というお悩みの声もよく聞かれます。

そこで今回は、品質管理教育を担当する方々がよく抱える課題と、それを解決するためのヒントをご紹介します。

教育担当者がよく抱える3つの課題と解決策

課題1：社員のモチベーションが低い

「研修を実施しても、受講者が興味を持ってくれない…」「学んだ知識が現場で活かされない…」とお悩みではありませんか？

品質管理は基礎的な知識から応用まで幅広く、専門用語も多いため、受講者が理解しづらいこともあります。その結果、モチベーションが低下し、研修が形骸化するケースも見られます。

解決策：実践的で双方向の研修を取り入れる

- ・座学だけでなく、ワークショップ形式で実施することで、受講者が積極的に参加できるようにする。
- ・現場の具体的な問題を取り上げ、ディスカッションやロールプレイングを交えて学ぶ。
- ・学んだ知識を実際の業務でどう活かすのか、事例ベースで考えさせる。

「自分ごと」として学べる環境を作ることで、モチベーションの向上が期待できます。



課題2：教育プログラムが整っていない

「とりあえずISOの基礎を教えているけれど、それ以上の内容はない…」「OJTが中心で、体系的な教育ができていない…」といった声もよく聞かれます。

品質管理の教育は、一度教えたら終わりではありません。計画的な教育プログラムを設計し、継続的に学べる仕組みを作ることが重要です。

解決策：段階的なカリキュラムを整備する

- ・基礎から応用へとスムーズにレベルアップできるカリキュラムを作る。
- ・品質管理の基礎知識 → 実務での応用 → 継続的改善活動 という流れを意識する。
- ・社内のベテラン社員や専門家を講師として招き、実務に直結した内容を組み込む。

このように、段階的な学習ができる仕組みを作ることで、教育の効果を高めることができます。

(次ページへつづく)

課題3：教育の効果が測れない

「研修を実施したけど、どれだけ効果があったのか分からない…」「研修後のフォローができていない…」という課題も多くの企業で見られます。

教育の効果を可視化できなければ、どこを改善すべきなのか判断が難しくなります。

解決策：評価とフィードバックの仕組みを作る

- ・研修の前後で理解度テストを実施し、知識の定着度を測る。
- ・受講者からフィードバックを収集し、研修の改善に活かす。
- ・研修後、現場での行動変化をチェックし、実務への影響を評価する。

PDCAを回しながら教育を進めることで、より効果的な研修が可能になります。

出張セミナーで効果的な品質管理教育を実現！

「効果的な教育をしたいけれど、社内だけでは難しい…」とお悩みなら、プロの講師による出張セミナーの活用もご検討ください。

JUSEの出張セミナーでは、

- ・実践的で分かりやすい講義
- ・貴社の課題に沿ったカスタマイズ可能なプログラム
- ・双方向型の学習で、即戦力となるスキルの習得

を提供します。

社内教育を強化し、品質向上につなげるために、ぜひご活用ください。

ご相談・お見積もりは無料です。

ご興味のある方は、ぜひお問い合わせください。

(以下余白)

一般財団法人日本科学技術連盟
品質経営推進センター 営業・企画グループ

https://www.juse.jp/shanai_seminar/app/step1/?

＊社内セミナーに関するお問い合わせは、上記リンク先よりお願いいたします。

